

第8回平塚市社会教育委員会議要旨

日 時	令和6年1月23日（火）15時00分～16時25分
会 場	平塚市役所410会議室
出席委員	山崎委員、大和田委員、鈴木委員、丸島委員、小巻委員、 畠中委員、江水委員、飯田委員、伊東委員
欠席委員	井手委員、河野委員
事務局	平井社会教育部長、田中社会教育課長、鳥居中央公民館長 木村課長代理、木村主査、吉水主事
傍聴者	なし

会議要旨

1. 議長あいさつ

今年初めに能登地震が発生し、帰省中に被災された方もいるようである。現地では今後、地域コミュニティを維持していけるのかが課題と言われている。震災によって地域コミュニティの大切さを改めて実感している。

今日の会議は今期の最終となる。報告書（案）を作成しているので、意見をいただければと考えている。

事務局から今年度のまとめや次年度の計画などについてお願いしたい。

○事務局

今期の社会教育委員の任期は今年5月31日までですが、委員が集まる定例会議は今日が最終となる。報告書の作成に御尽力いただきました委員の皆様には御礼申し上げます。本日の会議で御意見をいただき、完成した報告書は2月の定例教育委員会の前に教育委員の皆様にお配りし、議長・副議長と意見交換をする予定である。

その後、完成した報告書は、公民館への配架と市ホームページでの公開を予定している。

また、本市の社会教育部においては、次期スポーツ推進計画に関してこれからパブリックコメント等で御意見をいただく予定である。

イベントでは、秋に平塚市文化祭や地区レクリエーション大会などが盛大に開催でき、地域の繋がりの大切さを実感した。年始には駅伝大会も多くの市民に参加いただき開催することができた。今後は2月～3月にかけて公民館まつりが開催される。年度末には、スポーツフェスティバルという大きなイベントも予定されている。

地域の皆様との繋がりをより一層深めていきながら、今後の各種社会教育事業を実施していきたいと考えている。

2. 議事

(1) 神奈川県社会教育委員連絡協議会の事業について

- ・地区研究会（寒川町）について

事務局から2月15日（木）に開催する地区研究会の案内をした。（参加希望の委員は事務局まで）

(2) 報告書（案）について

○議長

11月に集まれる委員で報告書の内容を詰めるために集まり、意見を出してもらい、報告書（案）を作成している。大幅な修正は難しいが、この報告書の内容について、気付いた点、字句の修正点等あれば御意見いただきたい。

○委員

報告書はよくまとめられている。作成いただいた委員の方々、ありがとうございます。特に最終ページの中学生のボランティア活動については、写真を差し込んでいただき、見やすくなったと思う。

先日、崇善公民館にて公民館の研修会があり、「学校と地域の繋がり」について講師として話をする機会があった。この報告書の前回と前々回のもので資料として活用されていた。今回の報告書も色々なことに生かされ、次に広がっていけばいいなと感じた。

○委員

子どもと一括りに言っても年齢の幅が広い。横浜市磯子区のある自治会では中学生が自治会役員として活躍しているように、この報告書を見て参画することに繋がっていけばいいなと感じた。子どもの定義は難しいと思った。

○委員

この会議での委員のさまざまな意見が報告書の中にうまく入っていると思う。

公民館の事業を企画、実施していて、学校にチラシの配布などをお願いすることがあるが、学校を介さず回覧板で参加者を募った場合と比べた場合、圧倒的に学校から配布してもらった方が参加者は多い。地域と学校との連携はとても重要なものと感じている。

○委員

報告書の色使いも温かい感じでとても良いと感じる。各委員が発言しているバラバラ

と思われる発言もうまく入れ込んでまとめられている。

このように2年間の成果を報告書としてまとめられたことはとても喜ばしいと感じている。この報告書が色々な人の目に止まるように周知できればと思う。

○委員

この報告書をまとめて終わりではなく、この内容を今後どう市政に反映していくかが大事ではないかと思う。東京都の世田谷区や杉並区などでは、住民の意見を区政に反映させる取組として、区長と区民とが直接対話する車座集会というものをまちづくりセンターなどで設けている。行政と住民が顔の見える関係となって、今後の行政運営に生かしていく取組が大切ではないかと思う。

修正箇所として、見開き右の文章で段落になっていない箇所があるので修正いただければと思う。

○委員

報告書はとても見やすくまとめられている。報告書をまとめるだけでなく、今後どう生かしていくのかが大切ではと感じている。

○副議長

二年間議論してきたことを報告書としてまとめることで、自分の頭の中を整理することができたと感じている。

報告書をまとめた後のことが大切なのはとても理解できる。一方で自分が地域に戻り、何をすることができるのかなと考えさせられている。まず取り組むべき大切なこととして、地域の中で顔の見える関係づくりやざっくばらんに話し合える関係づくりが重要ではないかと感じている。

○副議長

この会議の中で委員の皆さんの思いを聞いていると共感することが多く、ひと言ずつ熱い思いを感じている。中面右側の文章でこの会議での委員の皆さんの思いがまとめられている。

このような報告書にどのようなまちを目指していくのかなどのビジョンを示すことで今後少しでも近付いていき、皆で共有することに繋がれば良いと思う。

○議長

この会議の中で多くのさまざまな意見があった中でどう報告書にまとめていくかと心配していたが、作業にあたった委員や事務局に感謝したい。

この報告書が完成した後、どう生かしていくかは大切である。多くの地域の人や行政

の職員にも目を通してもらえればと思う。今後、徐々に市内に広がっていくコミュニティ・スクールの委員にも目を通してもらえるといいのではと感じている。

私もさまざまな活動の中で紹介していけたらと考えている。

この報告書はどの程度印刷を予定しているか。また、各委員が会議等で配布したい場合は印刷いただけるものか。

○事務局

現在、紙媒体での印刷は100部程を考えており、市内各公民館に市民の皆様が手に取れるよう配置していく予定である。電子では、市ホームページへの掲載を考えている。

カラー印刷の予算との兼ね合いもあるが、相談いただければできる限り対応していきたい。

○副議長

公民館運営委員会で取り上げてもらえるといいのではと思う。子どもたちへのアプローチを課題としている公民館もあるのではと思う。私も公民館運営委員なので、この報告書を配布して紹介したいと考えている。

○委員

「子どもたち」と「子ども」と表記されているものが混在している。その他にも「活かす」と使われている箇所も「生かす」とするか「活かす」とするか、内容に応じて適宜修正していただければと思う。

中面右の文章内の3段落目にある「相互の交流を深めて、」を「相互の交流を深めたり、」とした方が読みやすいのではと感じた。

最終面のカルタ大会写真の注釈を修正しても良いのでは感じた。

○副議長

港地区カルタ大会の文章にあと少し中学生の声など、追加することができたらよいと思う。また、第43回のカルタ大会がいつ行われたのか分からないので、年度をどこかに入れられると良いのではないか。

○事務局

港地区カルタ大会の写真は個人が特定できる状況であるので、そこを工夫して印刷、ホームページへの掲載をしていきたいと考えている。

○議長

最後に1期2年の感想や思いなど、ひと言ずつお願いしたい。

○委員

公募委員として2年間、あっと言う間に過ぎていったと感じている。先日、テレビで親が元気で楽しく過ごしている姿は、子どもにとってとても重要なことであるという内容を見た。私の区内は、地域の大人たちが元気に楽しく活動している方々が多いが、私も自分の地区に戻り、コミュニケーションを大切に顔の見える関係づくりを何らかの形で繋げていきたいと思う。

○委員

3期6年、委員として参加させていただいた。市外の者として平塚市を見させてもらった。平塚市博物館の浜口氏の「放課後博物館へようこそ」は学芸員を目指す学生にとっては必読書で、地域と博物館のことを書いた本である。

平塚市民の皆さんは自分たちで自分たちのまちをどうしていったらよいのか、公民館、博物館、図書館などが真摯に向き合って、市民に対応していることをこの会議を通して感じる事ができた。

博物館が専門であるため、博物館のことを中心に発言することが多かったが、この社会教育委員会会議で広く社会教育の役割を勉強させていただいた。

次期委員は新しい大学教員が委員となる予定で新しい風が吹いていくのではないかと思う。大学の教員の知を生かしていただけると幸いである。

次期会議の取り上げていただきたいテーマとして、LGBTQ、ウェルビーイングなどあるが、これらをもっと広く包括してみんながハッピーに一人一人が自分らしく生きていくためにどうあるべきかという大きな議論をしてもらえると夢や希望があり、いいのではと感じている。

○委員

市P連から団体選出として2年間参加させていただいた。毎回この会議を楽しみにしていた。委員の皆さんと楽しく議論をすることができたと感じている。

ここで話し合われたことを自分の地域に戻って、今回まとめられた報告書を使ったりしながら、自分が所属する団体にも繋げていければと考えている。

半年程前に偶然飲食店で私が高校の時の先生の娘さんと知り合うことがあり、娘さんの親である高校の先生と繋がる事ができた。同じ地区に住んでいることもあり、何か地域のためにできることがないか、今後具体的に考えていくことになっている。

このように人と人の出会いは縁であると感じている。この会議で委員の皆さんと出会ったのも縁だと思っているので、今後またどこかでお会いすることがあるかもしれないが、またその時はよろしくお願ひします。

○委員

2年間ありがとうございました。自分の地域では、自治会の方で同年代か上の世代と話をすることが多いが、この会議はとても新鮮で楽しかったと感じている。

自分の地区の地域運営協議会でこの会議の内容の子どもの参加・参画の話をしていたら、自治会で子どもを対象のイベントをやることに繋がったりしている。ただ、自治会は2年で大幅に交代するため、なかなか繋がっていかない状況もあり、課題だと感じている。

地区レクリエーション大会の時に、競技を子ども以上に親世代が楽しんでいる姿が見られた。それを見ている子どもも楽しそうにしていた。

イベントを企画する時に大切なのは、子どもを対象にするのはよいが、親子を対象に企画した方が盛り上がるのかもしれないと感じている。

○委員

自治会連合会から選出されているが、連合会長の任期6年が満了するため、今期で終了となる。この会議では、難しい内容をテーマにしていることもあり、なかなか気楽には参加できないとも感じていた。

昨年12月に大原公民館事業として、大原小学校と協力し、E S D（持続可能な開発のための教育）をテーマに国連のユネスコ職員と小学生が公園で落ち葉を使って、魚を作る、落ち葉アート体験が実施された。アートの中に海と山の概念を盛り込んだものになっており、参加した小学生やユネスコの職員にも大変好評であった。

このE S Dは、今期話し合われたテーマそのものではないかと感じている。

○委員

1年間という短い期間であったが、大変お世話になりました。顔の見える関係づくりは大切なものなので、この安心感がないとなかなか広がっていかないものではないかと感じている。

社会教育委員会議の中で博物館や社会教育のあり方を考える中で、上野にある国立科学博物館の特別展を観に行く機会があったのだが、弥生時代の出土品の炭化米のおにぎりが平塚市教育委員会からの出展とあり、驚いた。まだまだ平塚市にいながら、知らない宝物が多くあるのだと感じた。

繋がりをツールにして、子どもたちや地域を呼び起こす魅力がたくさんあると思った。

○副議長

3期6年関わらせていただいた。素晴らしいメンバーで協議することができたのも大

切な縁だと感じている。地域の中でも名前は分からなくても、顔は知っている人がいることはあるのではないかと思う。私は地域の主任児童員であるが、地域のお祭りの際に（名前を知らない）顔見知りの小さい子を連れた若い家族から気さくに声をかけてもらった。「知っている方がいてよかった」や「安心しました」と言われた。このような関係の繋がりはとても大切であると感じている。

この会議で議論していたから、子どもの参加・参画や顔の見える関係づくりについて、意識を継続できていたのかと思う。

今後の社会教育委員会議の議論については、興味を持って見守っていきたいと思う。

○副議長

2年間とても短く感じた。こんなに私の人生の中で社会教育について考えたことはなかったのではないかと感じ、とても勉強になりました。

この会議でさまざまな地域や立場の方からの意見に触れることによって、地域性や立場の御苦労を知ることができて、とてもよかったと思う。

ここの会議で議論し、報告書にまとめた内容は、ここで具体的に対応していくのではなく、この報告書を読んだ方々や行政などが何か具体的な行動として繋がっていけばよいと感じている。

私は地域で民生委員を務めており、比較的高齢者と接する機会が多くある。高齢者の皆さんは子どもたちと接するととても元気になる。普段はなかなか歩かない方がいつもより表情が明るくなり、杖を使って歩いたりする姿が見られたりする。必ずしも継続した繋がりではないこともあるが、地域の人と人との繋がり大切さを感じている。

○議長

2年間、さまざまな委員の皆さんの意見などがとても参考になりました。

私は地域教育力ネットワークから選出されて参加しているが、今期のテーマは今後の活動にとって大変参考になったし、今後に繋げていきたいと感じている。

公民館の職場体験の事業にある中学生が参加していた。その中学生が自己紹介の中で座右の銘を「やらない善よりやる偽善」と言った。中学生がなかなか言えることでないととても感心した。

以前は中学生のボランティア活動は内申点に加点されていた時期があり、その頃は多くのボランティアの子どもたちが参加していたが、内申点の加点が無くなってからは、参加者を集めるのにも苦労している状況である。内申点に加点されるということがボランティアを始める一つのきっかけとなったのであれば、それはよかったのではと思う。きっかけはどうあれ、ボランティアをしてもらった側は感謝をするし、もし仮に偽善だったとしてもよいことではないかと思う。

次年度のテーマについて、平塚市の社会教育施設は近隣市町と比較して、大変充実していると感じていて、平塚市の大きな財産であると思う。この大切な財産をどのように活用していくのか、もっと活用できないか考えていければいいなと考えている。次期の委員の皆さんと意見を出しながら、決めていきたいと思う。

○事務局

首長と住民との直接の対話の場についてであるが、平塚市でも市長と市民の方々が意見交換できる場として「ほっとミーティング」を定期的に開催している。

3. その他

○事務局

2月20日（火）に教育長と教育委員と社会教育委員（議長・副議長）との意見交換会が予定されている。この場で今期の報告書の内容を説明し、意見交換をする予定である。

また、次期社会教育委員会議の公募委員の募集が広報ひらつかの2月第3金曜日号にて掲載される予定である。また、各地区公民館だよりの2月、3月号のいずれかで掲載に協力いただける地区では掲載されることになっている。

以 上